

福井工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	音楽(F5)	
科目基礎情報						
科目番号	0030		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	1年混合学級 (一般教育科目)		対象学年	1		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	高校生の音楽 1					
担当教員	三輪 真理, 森 貞					
到達目標						
芸術としての音楽文化の理解を深め、音楽を愛する心を育てる						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	様々な時代・国・ジャンルの音楽に触れることにより、幅広い知識と豊かな感性を十分に養うことができる。		様々な時代・国・ジャンルの音楽に触れることにより、幅広い知識と豊かな感性をかなりの程度養うことができる。		様々な時代・国・ジャンルの音楽に触れることにより、幅広い知識と豊かな感性をある程度養うことができる。	
評価項目2	自分なりの表現が出来、それを十分に深めていくことができる。		自分なりの表現が出来、それをかなりの程度深めていくことができる。		自分なりの表現が出来、それをある程度深めていくことができる。	
評価項目3	音楽と生活、自己との関わりについて深く考えることができる		音楽と生活、自己との関わりについてかなりの程度考えることができる		音楽と生活、自己との関わりについてある程度考えることができる	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 RA2						
教育方法等						
概要	個性豊かな表現能力を伸ばし、音楽を愛する心を育てる。					
授業の進め方・方法	様々な時代・国・ジャンルの音楽に触れ、音楽と自分、生涯の生活との関わりについて考える。音楽の基礎知識について学び、譜読力を身につけ、音楽的な演奏、自己表現に繋げていく。					
注意点						
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	楽典、相対的音感の養成	拍、音価、拍子の理解 拍とリズム 階名の理解 ソルフェージュ ハンドサイン		
		2週	楽典、相対的音感の養成	拍とリズム 階名の理解 ソルフェージュ		
		3週	楽典、読譜	ソルフェージュ 階名読みの練習		
		4週	楽典、読譜	ソルフェージュ 音名と階名		
		5週	楽典、読譜	ソルフェージュ 読譜の練習		
		6週	楽典、読譜	ペンタトニックから西洋音階へ		
		7週	日本の音楽と踊り	わらべうた、唱歌、踊りから日本の特性を考える		
		8週	世界の音楽と踊り	世界の民謡・ダンスの鑑賞 日本との比較		
	2ndQ	9週	前期中間試験	音楽の基礎力、内的聴感力の診断		
		10週	音楽表現	鍵盤演奏の体験 基礎編		
		11週	鑑賞と音楽表現	鍵盤演奏の体験 読譜と演奏		
		12週	音楽表現	鍵盤演奏の体験 演奏とアンサンブル		
		13週	歌唱、アクティブ リスニング	鍵盤演奏とアンサンブルの発表 ドイツリートと表現		
		14週	音楽史と鑑賞	バロック音楽から現代音楽		
		15週	合唱	アカペラの合唱、カノン		
		16週				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	3	前15	
		汎用的技能	目標の実現に向けて計画ができる。	3	前10, 前11, 前12, 前13	
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	3	前15
				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	3	前15
				当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	3	前15
				チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	3	前15
			リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	3	前15	

				適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	3	前15	
				リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	3	前15	
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	40	40	0	20	0	0	100
基礎的能力	40	40	0	20	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0